「日本原開拓之碑」

岡山県勝田郡奈義町・日本原開拓

岡山県北東部の勝田郡奈義町（なぎちょう）は鳥取県と接し、人口は約 5500 人で、農業、畜産、林業が主な産業。中国山脈の主峰・那岐山（なぎさん）の南麓に位置し、町の南西部には、緩傾斜の日本原（にほんばら）高原が広がっている。日本原には戦前、陸軍の演習場があった。その跡地で戦後開拓事業が行われた。

1946（昭和 21）年３月、引揚者、戦災者を主体に 88 戸が入植した。開拓地の面積は 156 町歩で、表土は火山灰の黒土だった。台風発生時などには、「広戸風（ひろとかぜ）」と呼ばれる強風が山から吹き下ろす地区で、豪雪地帯でもある。土地・資材の配分、地区別の組編成を行い、開拓を始めた。手作業で開墾に打ち込んだ。

48 年、日本原開拓農協を設立。カンショ、バレイショの生産、乳用牛の導入などを推進した。50 年、電気が導入された。同年、中四国９県の中から、優良開拓地として、農林大臣賞を受賞した。

その後、酪農のほかに肉用牛や養鶏など、畜産が急速に普及した。

61 年から、陸上自衛隊演習場の拡張のために、防衛庁による開拓地の買収交渉が行われた。63 年、買収が確定（現・陸上自衛隊日本原駐屯地、同演習場）。翌年、76 戸が離農し、県内各地に転出した。新野地区のみ 12 戸が残留し、15 町歩の開拓地を基盤に酪農を主体として定着した。

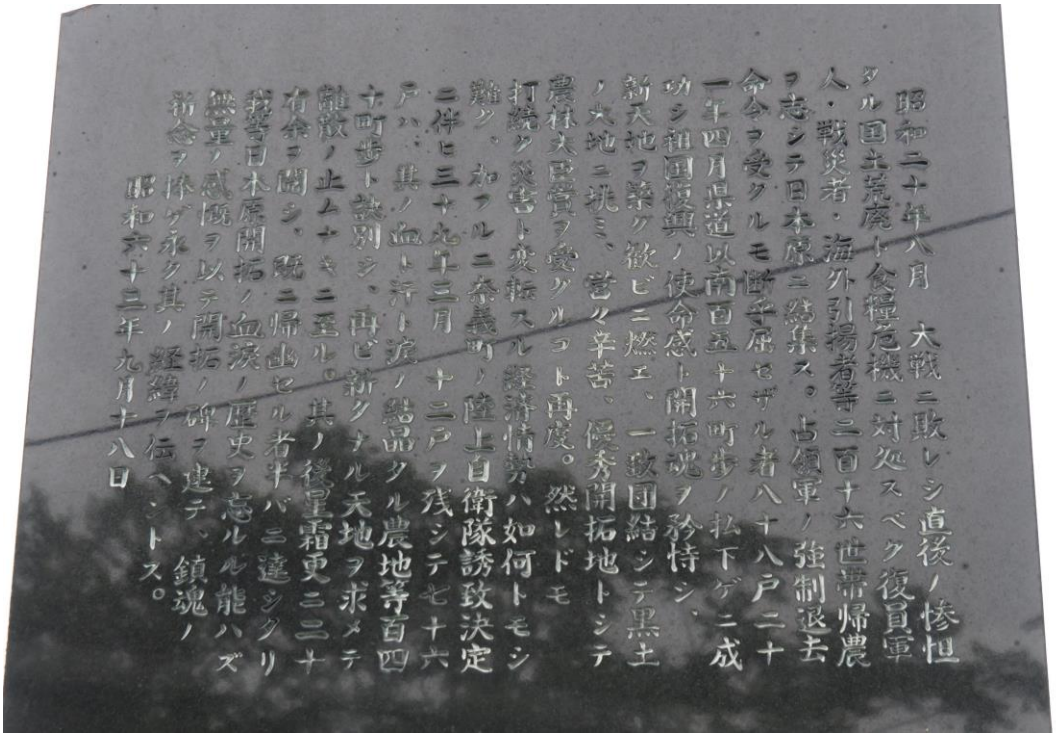
同町上町川の公民館の敷地内に、開拓記念碑がある。入植者が 89 年に建立したもので、碑銘は「日本原開拓之碑」。裏面には、碑文と開拓者氏名が刻まれている。碑文には、「祖国復興ノ使命感ト開拓魂ヲ矜持シ、新天地ヲ築ク歓ビニ燃エ、一致団結シテ黒土ノ大地ニ挑ミ、営々辛苦、優秀開拓地トシテ農林大臣賞ヲ受クルコト再度」「奈義町ノ陸上自衛隊誘致ニ伴ヒ三十九年三月、十二戸ヲ残シテ七十六戸ハ、其ノ血ト汗ト涙ノ結晶タル農地等百四十町歩ト訣別シ、再ビ新タナル天地ヲ求メテ離散ノ止ムナキニ至ル」と記されている。

日本原開拓之碑

①所　　在　岡山県勝田郡奈義町上町川
②設置年月日　昭和 63 年 9 月 18 日
③設　置　者　入植者
④碑　　名　開拓碑
⑤碑文（表面）　日本原開拓之碑　奈義町長　黒田 貞太郎 書
副碑（表面）　賛助者芳名
⑥碑文（裏面）　昭和二十年八月 大戦に敗れし直後の惨担たる国土荒廃と食糧危機に対処すべく復員軍人・戦災者・海外引揚者等二百十六世帯帰農を志して日本原に結集す。占領軍の強制退去命令を受くるも断固屈せざるもの八十八戸二十一年四月県道百五十六町歩の払下げに成功し祖国復興の使命感と開拓魂を矜持し、新天地を築く歓びに燃え、一致団結して黒土の大地に挑み、営々辛苦、優秀開拓地として農林大臣賞を受くること再度。然れども打続く災害と変転する経済情勢は如何ともし難く、加ふるに奈義町の陸上自衛隊誘致決定に伴い三十九年三月　十二戸を残して七十六戸は、其の血と汗と涙の結晶たる農地等百四十町歩と訣別し、再び新たなる天地を求め離散の止むなきに至る。その後星霜更に二十有余を閲し、既に帰幽せる者半ばに達したり我ら日本原開拓の血涙の歴史を忘るる能はず無量の感慨を以て開拓の碑を建て、鎮魂の祈念を捧げ永く其の経緯を伝へんとす。
昭和六十三年九月十八日　　開拓者氏名
⑦現在の状況　日本原開拓記念館地内で管理されている。

日本原開拓之碑
大宗義町長里田貞太郎書

日本原開拓之碑



昭和二十年八月　大戦ニ敗レシ直後ノ惨憺
タル国土荒廃ト食糧危機ニ対処スベク復員軍
人・戦災者・海外引揚者等二百十六世帯帰農
ヲ志シテ日本原ニ結集ス。占領軍ノ強制退去
命令ヲ受クルモ断乎居セザル者八十八戸二十
一年四月県道以南百五十六町歩ノ払下ゲニ成
功シ祖国復興ノ使命感ト開拓魂ノ矜持シ、
新天地ヲ築ク欲ビニ燃エ、一致団結シテ黒土
ノ大地ニ挑ミ、苦々辛苦、優秀開拓地トシテ
農林大臣賞ヲ受クルコト再度。然レドモ
打続ク災害ト変転スル経済情勢ハ如何トモシ
難ク、加フルニ奈義町ノ陸上自衛隊誘致決定
ニ伴ヒ三十九年二月　十二戸ノ残シテ七十六
戸ハ、其ノ血ト汗ト涙ノ結晶タル農地等百四
十町歩ト訣別シ、再ビ新タナル天地ヲ求メテ
離散ノ止ムヤキニ至ル。其ノ後星霜更ニ二十
有余ヲ閲シ、既ニ帰幽セル者十八ニ達シタリ
我等日本原開拓ノ血涙ノ歴史ヲ忘ルル能ハズ
無量ノ感慨ヲ以テ開拓ノ碑ヲ建テ、鎮魂ノ
祈念ヲ捧ゲ永ク其ノ経緯ヲ伝ヘントス。
昭和六十三年九月十八日